

# J. K.ローリングの倫理体系

アメリカの文化的現象にみる

An Ethical System by J. K. Rowling: The Cultural Phenomenon in the US

子 安 恵 子

Keiko KOYASU

子供向けの本で、ハリー・ポッター・シリーズほど人気となったものは多くはない。しかし文学的センセーションとまで言われる本の売上げは、しばしば非難の的ともなった。拡大していくポッター帝国へ、批評家は不満な論評という手段で攻撃にかかりだし、心からの興味を子供たちから奪おうとした。批評家が考えるには、著者J. K. ローリング (Joanne Kathleen Rowling, 1966-) はせいぜいちょっとは賢いが、ありふれた平凡な作家であり、猛威を振るう消費文化に貢献し、政治的に反動的な価値観をもたせるか、あるいは（さらに悪いことに）危険な考えを奨励する作品を書くことで、若い精神に道をはずさせ、宗教の価値観を徐々に衰えさせる、というのである。ハリー・ポッター・シリーズをとりまくこのような論争にも関わらず、物語の倫理性への体系的分析はあまり行われず、批評は、社会変化の非現実的可能性によるものか、魔力を持つことに対する脅威が誇張された主張によるもので、物語そのものに表されている道徳性を当然視している。

ご存知のように、ハリーはすごくいい役の手本である。どこか不完全で、まるで本に夢中になっている子供たちと同じである。ハリー

は大部分の読者が期待するような方法、すなわち感情の重さを量り、友人や指導者と問題点を話し合い、よく考えて選択して、道德の問題に取り組んでいる。ハリーは社会主義の活動家でもなければ、宗教の原理主義者でもないのは事実で、こういった事実は道德の腐敗を暗示するものではない。この物語は強い倫理上の側面を含んでいる。そして倫理学へのローリングのアプローチは一貫していて、行き当たりばったりでたどりついたとは想像しがたい。

## 【アップデートした道德哲学】

ローリングは、ハリーや彼の友たちに、倫理的ジレンマ、すなわち善か悪かについて込み入ったやり方でハリーたちに考えさせるジレンマを通して、本質的にはストア学派の道德哲学を展開しているともアメリカでは言われている。しかしローリングの倫理体系は、無感情でうんざりするほどの厳格さや、享楽や悲嘆には目が眩むほど無関心な、ストア哲学者に共通のステレオタイプを、きっぱりと追い払っている。ローリングの登場人物たちは少しも無感覚でなく、十分に人生を謳歌している。もしストア哲学を引き合いに出すな

らば、ストア哲学に対するローリングの解釈は明らかにアップデートされたものと言えるが、感情の発達に十分な注意を払いつつ、それにもかかわらず最も重要な道徳性は、古めかしいオールドファッションな不変性である。逆境をものともしないハリーの決意は、自覚した上での選択と、何が自分のコントロールの範囲内であるのかそうでないのかということに対して細心の注意を払った結果である。彼は他の者たちを助けるために、自分自身を磨いていく。彼は自分が誰であるのかに悩みながらも、自分が何をするのが最も重要であるということを認識している。事実、物語はハリ風風のやり方、そこへいたる道徳的決断に焦点を合わせる。確かにストア哲学の主題、すなわち宿命論、忍耐、粘り強さ、自己修養、理性、結束、共感、犠牲的行為などのいくつかの手がかりを詳しく述べているが、その上でローリングは、想像力に富んだ機知と、真摯な道徳性への熟慮を混在させている。

ローリングは、色々な方法で、英雄的行為の古くからの解釈に鋭気を養わせ、典型的な Bildungsroman（大人になっていく物語）を語るが、ハリーと彼の友たちを演じさせるのに、21世紀の子供たちの感性に適合させている。子供たちは自分たちにしかれた制限を理解しているが、自分たち自身の意思決定と能力を重んじている。おそらく大人の読者たちをひきつけているのもこの同じ公式であろう。作品は、子供と大人の両方の読者に安心感を与える哲学を利用している。なぜなら世の中の変わりやすさと不確かさのためからか、自分たちのやり方を進めようとしているからである。そこでいわばアップデートされたストア哲学は、新しい正当性を新たに進めることなく、自己配慮と当然されるべき他人への配慮への手引書となっている。

近年の出来事は、残念ながら安心感や慰め

の必要性の度を増してきている。海外でのテロ行為、イラク戦争は、漠然とした不安感を将来の脅威や徴候におきかえた。けれども不安と恐れは、しばしば決意、警戒、忍耐、正義への叫びとなる。怒り、パニック、軽はずみな行動、復讐願望といった感情を抑制するストア哲学の叫びと、同じ叫びになるのである。ハリー・ポッターは、我々の今とよく似た、増大していく脅威に臆せず立ち向かう。シリーズが進むにつれ、ハリーの世界はますますはっきりしないものとなっていく。彼は手引きを見出すが、苦境から抜け出す簡単な方法はない。

Lemony Snicket というペンネームで子供向けの本を書いている Daniel Handlerは、彼のシリーズ「不幸な出来事のシリーズ」を含めて、こわい話の魅力を擁護している。そのシリーズの始めで、彼はハッピーエンドを期待する子供たちは何か他のものを読んだらいいと言い、ニューヨーク・タイムズの特別記事で、不幸な物語の肩をもって短い記事を出している。

子供たちは、オラフ伯爵（悪者）はテロリストですかとか、ボードレール（主役の3姉弟妹）はワールドトレードセンターのどこか近くにいましたか、物語で場所の名前のない国は爆撃される危険がありますか、などと書いてくる時、彼らが私たち大人と同じ問題に取り組んでいることが明白となる。<sup>1)</sup>

Handlerは続けて、いくつかの重要な点を述べる。身の毛のよだつようなことをする人もいれば、犠牲になる人たちもいる、脅威はやたらに広がる、そしてどう対処したらよい

1) Daniel Handler, "Frightening News." 17.

かを気にかけることはよいことであると。このような問題を提起することを避ける物語は、解決策を提案できないであろうと言う。問題の世界を舞台とした物語はさらなる価値を示し、幻想は少ない。彼は続ける。

このような物語は陽気ではないが、真実を提供する——実際のトラブルは消えることはなく、耐えるのみ——このことは、機嫌よくニヤリとするよりも私の気持ちを落ちつかせる。<sup>2)</sup>

Handler が、辛抱や我慢の中に、慰めや安心感を見出しているのは印象的である。ハリー・ポッターに親しみが湧く思いである。この事実がハリーの物語をとっても魅力的なものとしたのだろうし、一方では道徳の問題を探求する価値があるのである。物語の中では、トラブルの方がハリーを見つけ、彼はそれを切り抜ける道を見出す。物語は幸せな解決を約束するが、そこへ至る道はタフだろうことをさらに明確にする。悪に対する彼の反応にみられる不変性のために、不幸という古めかしい倫理はすべて時代遅れだという不満を読者に起こさせない。

### 【人気と批判】

本の売上げは熱狂的興奮とともに響き渡り、ローリングを古今を通じて稀にみるベストセラー作家の仲間入りをさせた。しかし人気は質を保証するものではないため、ローリングの成功は論議的となる。その本の偉大さや真価を否定する学者もいるし、またその価値を疑問視するのは、左派、革新的社会主義の批評家と、右派、保守的宗教擁護者である。文学批評家 Harold Bloom は敵意むき出し

に第1巻を公然と非難し、ローリングの文体を *The News Hour with Jim Lehrer* で「くだらないセンチメンタルな文体」と、また Charlie Rose は「単に安っぽくオーバーな表現」と苦々しげにあざ笑っている。<sup>3)</sup> こういった意見は、もう少し柔らかくにせよ、おおむ返しに繰り返され、シリーズは「単なる子供向けの本」であり、『ハックルベリー・フィンの冒険』『たのしい川辺』『指輪物語』『ナルニア国物語』<sup>4)</sup>のような、古典と認められているものには到底及ばないとされる。

他の批評家たちは、ローリングの物柔らかな政見を指摘し、一般に容認された規範に挑むことへの失敗に加えて、民話とプロットのしきたりにのっとりた使い方や、登場人物は主役に男の子、準主役に女の子だとか、文体の怪しげな面、真偽の疑わしいダッシュの多用等に言及している。<sup>5)</sup> ウェブ・サイトの Salon.comでの文化解説者Christine Schoeferは、「魔法や魔術というフィクションの領域は、男性が世の中を動かすべきだという伝統的な思い上がりを完全にそっくり再現している」<sup>6)</sup>と、かなりきっぱりと言う。

3) Harold Bloomに関して、Ray Suarez, *News Hour*. August 29, 2000. <[http://www.pbs.org/newshour/conversation/july-dec00/bloom\\_8-29.html](http://www.pbs.org/newshour/conversation/july-dec00/bloom_8-29.html)>

Charlie Roseに関して、Jamie Allen, CNN.com. July 13, 2000. <<http://www.cnn.com/2000/books/news/07/13/potter.hype/>>

4) Mark Twain, *Huckleberry Finn*. 1875.  
Kenneth Grahame, *The Wind in the Willows*. 1908.

J. R. R. Tolkien, *The Lord of the Rings*. 1954-1955.

C. S. Lewis, *The Chronicles of Narnia*. 1950-1956.

5) Julia Eccleshare, *A Guide to the Harry Potter Novels*. 3.

Jack Zipes, "The Phenomenon of Harry Potter, Or Why All the Talk?" 170-189.

Farah Mendlesohn, "Crowning the King: Harry Potter and the Construction of Authority." 159-181.

6) Christine Schoefer, "Harry Potter's Girl Trouble." Salon.com. January 13, 2000. <<http://dir.salon.com/books/feature/2000/01/13/potter/index.html>>

2) Ibid.

だがもっと過激な異議申し立ては、子供たちを「守る」という見せかけのもとに本を禁止する人たちからでている。何から子供たちを守るのか。ハリー・ポッターの本は心地よい以外の何者でもなく、また神の存在がないので魔法を奨励し悪魔の脅威にさらす、と言うのである。この種の文句は、キリスト教の教えの欠如に腹を立てる宗教グループ、原理主義からのものである。

The American Library Association's Office for Intellectual Freedom の副局長 Beverley Becker は、2001年の夏、本への異議申し立ては27の州でなされたと話した。それ以降も、カナダやその他の国々で記されている。原理主義の批評家は、子供たちの手から本を取り上げるという直接的行動に出るので、手ごわい相手である。ABCニュースが2001年3月26日に報じるところによると、何冊ものハリーの本が「不信心だ」として、実際ピッツバーグ郊外で焼かれたのである。<sup>7)</sup>

ハリー・ポッターに関する論争は、明らかに文化的現象であり、狭義な文学的現象を超えているが、少なくともある一定の人たちの間では続きそうである。第1作の映画がそのすごい成功を証明したし、2002年末の第2作、2004年夏の第3作、2005年末の第4作もそうである。ポッター関連のおもちゃやゲーム、その他の商品などもうどうしようもない。<sup>8)</sup>

7) Phone interview with Beverley Becker, associate director of the Office for Intellectual Freedom, American Library Association, August, 2001

"Purging Flame: Pa. Church Members Burn Harry Potter, Other Books 'Against God'," ABC News. com. March 26, 2001. <[http://www.more.abcnews.go.com/sections/us/dailynews/book\\_burning\\_010326.html](http://www.more.abcnews.go.com/sections/us/dailynews/book_burning_010326.html)>

8) "All about Harry Potter," Entertainment Weekly. December 21, 2002. <<http://www.com/ew/allabout/0,9930,37629-11-0-Harrypotterandchamber,00.html>>

"Potter Film Moves Rowling into Billionaire League," Guardian Unlimited. November 26, 2001. <[http://www.film.guardian.co.uk/News\\_Story/Exclusive/0,4029,606205,00.html](http://www.film.guardian.co.uk/News_Story/Exclusive/0,4029,606205,00.html)>

ハリー・ポッターは、行き詰まっているポップ・カルチャーの単なる最新の均質化された現れだろうか。

### 【人気が出た3つの理由】

想像力、これは本がこんなにも人気が出た最も重要な第1の理由であるが、中傷する大人たちに対するローリングの最高の防衛力が、またこの想像力である。作品の質や道徳への攻撃は、物語そのものから猛烈な挑戦となって返ってくる。表されている創造性は、子供たちの注意を引き、彼らを再び本へと呼び戻す。ローリングは、わかりやすく滑らかで巧みな文を書き、ハリーと彼の友たちが、善と悪について、込み入った方法で考えることを要求する道徳上のジレンマを、優美に配置している。巧妙に描かれた登場人物の誰かが説教をするかもしれないが、ローリング自身は絶対に説教をしない。

表立った宗教的または政治的メッセージの不在も、またこの本を特徴づけているもので、成功の2番目の理由である。目につかないほどの宗教色と、ありきたりの政治色としてたやすく馬鹿にされるということは、結局は大多数を不快にしないということである。だからといって、その本を道徳性と社会的良心に欠けるとみなすことは見当違いであろう。反対に、その開放性、正統派的慣行にわずらわされていないことは人気の一因となり、首尾一貫しているが柔軟性のある倫理コードを促進するのに、大変役立つ伝達手段をローリングは用意している。ローリングの創造性と巧妙さが結びついた時、彼女の人物提示や状況説明の容易さと明快さは、子供たちにとってその本をたまらなく魅力的なものにしている。

この事實は、本を取り巻く論争にもめげず、作品がとても愛されていることを証明する3つ目の理由であると思われる。すなわち、作

品は想像力に富んで面白い、と同時に道徳的には真面目であるということ。ローリング自身がファンの問いに答えて認めている、「私は誰にもお説教しようとはしていません。もし皆さんがハリーを好きになり、彼が誰であるかがわかるなら、私は嬉しく思います、なぜなら彼はとても好ましいと私は考えるからです。ハリーの本は道徳的であるとは思いますが、でも私は道徳を教えようとは本当にしていません。」<sup>9)</sup> 事実、創造性と倫理性はハリーの冒険の中になんか明確に共存している。ローリングは読者にワクワクさせるような世界だけでなく、問題に悩まされる世界もまた提供している。悪に対する勝利の期待だけでなく、善悪への考え抜かれた決意を通して、どのように立ち向かうかの指導もまた備えている。想像力を使うことで、倫理性をフルに働かせることになるのである。この組み合わせは、本を読むたいていの子供たちに理解され、効き目がある。

### 【想像力】

今までのところ、『ハリー・ポッターと賢者の石』『ハリー・ポッターと秘密の部屋』『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』『ハリー・ポッターと炎の騎士団』『ハリー・ポッターと謎のプリンス』<sup>10)</sup>の6巻は、7巻からなるシリーズの各々である。シリーズは、魔法の世

界とマグル<sup>11)</sup>の世界、その両方の世界を克服するためにハリーに難題を差し出し、彼の空間、生きるべき場所を徐々に明らかにしていく。魔法の世界で、様々な魔法使いや魔女たち、金融事業に携わるゴブリン、誤解されている狼男、嫉妬深い幽霊、たくさんの種類のドラゴンなどを知る一方、マグルの世界ではその他の人たち、つまり会社とかその他つまらない用事から成る生活をしている我々マグルを見る。たいていのマグルは魔法の世界に全く気がついていないか、あるいは理解の域を越えたことを目撃した場合、その記憶は修正されてしまうため、魔法の世界の存在を全く知らない。それでもなおこの2つの世界は似ていて、刺激的な魔法の世界はもう一方の現実の世界を映し出している：仲間や敵、家族、政府、食べたり寝たりすること、学校、買い物など。本は奇想天外なものと、日常のありふれた日々とを溶け込ませている。

ハリーは孤児であり、両親は最強の闇の魔法使いである悪の枢軸、ヴォルデモートに殺されたため、唯一の親戚であるダーズリー家にいる。ハリーは魔法の世界では最も有名な人物である（が、彼は11歳まではそのことを知らない）。まだ1歳の赤ちゃんであった彼は、ただ1人ヴォルデモートの攻撃から生き延びた。ヴォルデモートは自分がかけた殺しの呪文が逆噴射したため、肉体を失った半分の生の生き方を強いられている。ホグワーツ魔法魔術学校から手紙が届き入学するまでの10年間、彼は叔父伯母のダーズリー夫妻におろそかにされ、そこの1人息子ダッドリーにいじめられて過ごす。夏が来る毎に、彼は元の嫌な生活へと戻されるけれども、ダーズリー家での苦難とホグワーツ校での自由な生活が彼の成長を促していく。

9) Rowling, "Interviews and Essays." March 19, 1999. <<http://www.search.barnesandnoble.com/booksearch/isbninquiry.asp?btob=Y&isbn=0590353403&dusokatibkt=authorInterviews>>

10) Rowling, *Harry Potter and the Sorcerer's Stone*. 1998.

---. *Harry Potter and the Chamber of Secrets*. 1999.

---. *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*. 1999.

---. *Harry Potter and the Goblet of Fire*. 2000.

---. *Harry Potter and the Order of the Phoenix*. 2003.

---. *Harry Potter and the Half-Blood Prince*. 2005.

11) マグルとは魔法がつかえない普通の人間、すなわち我々のこと。

ハリーの味方となるロン・ウィーズリーは、貧しいけれど由緒ある魔法使いの家で、ハリーへの忠誠、ハリーの名声、運命放棄の辛抱は決して破られない。ハーマイオニー・グレンジャーは、マグルの歯科医の家族出身だが、マグルにもかかわらず魔法や勉強に秀でている。ロンというごく普通の男の子とハーマイオニーという学校で成績1番の女の子。2人の異なった準主役は、ハリーの社会での生活と学校での生活に具体性を与える。

ハリーの引き立て役は、超リッチで偏狭、根性の悪いドラコ・マルフォイで、闇の魔法使いとしての古い家系の一族である。ねっとりとしたセブルス・スネイプもまた疑わしい人物で、いつも度を越してハリーを狙っている。悪の枢軸ヴォルデモートは、かつて謳歌した力と肉体を取り戻すため、生命を取り戻させ、無限の富を与える賢者の石を捜し求めることから始まり、繰り返し生と死の戦いをハリーに挑む。

しかしハリーには守ってくれる人たちがいる。森の番人ルビウス・ハグリッドは、ハリーをトラブルから助け出したり、トラブルに引き込んだりを交互にする。アルバス・ダンブルドア校長はハリーを愛情をもって導き、比類なき力と知識を持ち合わせている。ミネルバ・マクゴナガル先生は、みあうと思われる知恵や規律を施す。そしてロンの両親は、ハリーの両親の代理となってくれる。ヴォルデモートの脅威を十分に感じながら、これらの大人たちは安全と指導を与えようとしている。

架空の城hogwarts魔法魔術学校は、素晴らしいホールや秘密の部屋、動く階段、絵——これは絵の中の人物が、額の中だけでなく他の絵へと動き回ったりするもの——で満ち溢れている。ハリーの寮はグリフィンボール。寮は他に、ハッフルパフ、レイブンクロー、スリザリンと全部で4つあり、それぞれがそ

れぞれの寮の校章、色、気風をもつ。hogwarts校の生活は、冒険といたずらが満載である。子供たちが興味を持つ多くの本は創造性に富む。そういった本の著者は、確かにワクワクする世界を作り上げるが、言語上は、子供たちというより、十分な教育を受けた大人たちを喜ばせるように巧みに作り上げられている。Mark Twainは、自分自身の体験をもとに書くことで、「大人たちはかつて自分自身にもあったことを心地よく思い出させてくる」ことを望んだ。Kenneth Grahameは『川辺にて』より以前に、大人向けの本を何冊かヒットさせた。J. R. R. Tolkienは『指輪物語』の第2章までで、子供向けに書くことを確かにやめたり、C. S. Lewisは広範囲にわたる寓話で、実際にはそうするつもりは全くなかったと言われる。<sup>12)</sup>

Philip Pullmanが最近完成させた*His Dark Materials*は、特質と文体の両方の点からしてこのグループに属する。ここで彼は(主節を持たない段落全部で)いくつかの章の場面設定を説明する。

East along the great highway of the River Isis, thronged with slow-moving brick barges and asphalt boat and corn tankers, way down past Henley and Maidenhead to Teddington, where the tide from the German Ocean reaches, and further down still ... to where the river, wide and filthy now, swings in a great curve to the south.

12) Mark Twain, "Preface." *The Adventures of Tom Sawyer*. 1875.

Kenneth Grahame, *The Wind in the Willows*. 1908.

J. R. R. Tolkien, "[Letter] To Milton Waldman." *The Letters of J. R. R. Tolkien*. 1981.

C. S. Lewis, "On Three ways of Writing for Children." *Of Other Worlds: Essays and Stories*. 1966.

(イシス川の大きな水路に沿って東へとゆっくりとした動きで、レンガでできた荷船、アスファルトのポート、とうもろこしのタンカーが押し寄せ、ヘンリーとメイデンヘッドを過ぎてティントンへ、そこはドイツの海からの潮がとどき、さらにずっと…川は南へと大きく弧を描く、今では広く汚れているが。)<sup>13)</sup>

美しい英文である。両親の多くはこの種のもので、子供たちにもまた楽しんで欲しいと願う。これは児童文学の批評家たちが喜んで賞賛する文体であるが、子供たちは気分が盛り上がるのには、時にはもう少し時間がかかる。

ローリングはもっと単純な文体を取り入れ、めったに横道にそれることなく、物語の中心をなす舞台設定の説明へとまっすぐに突き進む。

「みんな、ホグワーツがまもなく見えるぞ」

ハグリッドが振り返りながら言った。

「この角を曲がったらだ」

「うおーっ！」

一斉に声が湧き起こった。

狭い道が急に開け、大きな黒い湖のほとりに出た。むこう岸に高い山がそびえ、そのてっぺんに壮大な城が見えた。大小さまざまな塔が立ち並び、キラキラと輝く窓が星空に浮かび上がっていた。<sup>14)</sup>

この一節は編集者たちには感銘を与えそうではなく、その人気に対しては、ありふれた言葉遣いにもかかわらず並々ならぬ特長を十分伝える作品と、意見するにとどまる。<sup>15)</sup> ローリン

グの散文は、重々しい説明よりむしろ詳細を述べることで想像の余地をたっぷり残している。

人気の理由をさらにつけ加えると、詳細な部分に見出せるローリングの工夫である。まず、注意深い読者なら思わずにんまりすること請け合いの名前を、彼女は選んでいる。ダッドリー・ダーズリーはエリート校 Smeltings (溶解) 校に通っている一方、叔父と伯母はハリーを Stonewall (石の壁) 校へ追いやる。時にはフランス語の語呂合わせだったりもする：悪の枢軸ヴォルデモート (Voldemort: volé de mort 死の窃盗, volée demort 死からの飛行)、嫌な奴マルフォイ (Malfoy: mal foi, 邪悪な信仰)。この傾向は、巧妙なラテン語もどきの魔法の呪文にも現れている。例えば、足縛りの呪文ロコモーター・モルティス (Locomotor Mortis) とか、全身金縛りの呪文ペトロフィカス・トタルス (Petrificus Totalus) など。<sup>16)</sup> ほとんどすべての頁で、ローリングは魔法の世界のワクワクするような文化を広げてみせる。

ローリングは作品を組み立てていくことにおいても達人である。各々の本はハリーの1年間の生活を述べ、各章はそれぞれ独自の筋を持つが、秘められたことを少しずつ明らかにしていき、本全体のより大きな枠組みの世界を構築していく。第1巻と第2巻は、児童

15) Roger Sutton, "Potter's Field" and "When Harry Met Dorothy." *The Horn Book Magazine*. January/February 2001. <[http://www.hbook.com/editorial\\_jan01.shtml](http://www.hbook.com/editorial_jan01.shtml)>

16) Locomotor Mortis: すべてラテン語からの引用で, Loco ひとつの場所から, motionem 動かす, mortis 死という意味で, ひとつの場所から動けなくなる, という意味。

Petrificus Totalus: 全身が金縛りになる呪文。石化させてしまう。それぞれラテン語で, petrificare は文字通り石化するの意, totalis は英語の enter, はじめさせる, のニュアンス。

他にも Wingardium Leviosa: wing は英語で翼とか空を飛ぶ, arduus はラテン語で高く, leve もラテン語で, 上に上げるなどの意味。それぞれの意味をつなげて, ひとつの呪文にしている。

13) Philip Pullman, *The Golden Compass*. 40.

14) Rowling, *The Sorcerer's Stone*. 111.

書の標準的なやり方にきっちり従っている。それらはいくつかのエピソードからなり、一層大きな一連の物語が続き、そして急激にクライマックスとなる。両書とも、ハリーがダーズリー家で暮らしているところから始まり、すぐに hogwarts 校へと変わり、そこで手柄を立て、再び気の進まないダーズリー家へと戻る。第3巻はもっと長く、このパターンで始まるや、すぐあまりにも急に逸脱し、クライマックスへと広がっていく。読者はハリーの過去について多くのことを知るが、1つの脅威の解決がまた別の脅威の出現へと姿を変え、気をもむばかりである。2倍も長い第4巻は今までのパターンを完全にくつがえす。それはまずハリーが全くでてこないエピソードで始まり、物語が4分の1過ぎた時点でやっと hogwarts 校へ到着し、物語が始まる前に起こったとされる出来事を、詳細かつ念入りに作り上げていく。第5巻も同様であるが、この巻はシリーズが戻る旋回軸となっている。人を引きつけるプロットであり、以前から湧いていた疑問に答え、新たな疑問を提示して、読者を未知の世界へと導いていく。

ローリングのこのそつのない物語の語り方は、特別な注意に値しよう。すなわち、各巻で話が進んだり戻ったりする点である。ハリーの将来へと進めば進むほど、過去である彼の両親の方へと進んでいく。第6巻では特に顕著である。物語は過去が手まねきし、未来が脅威を突きつけるため、どんどん闇の中へと入っていく。過去・現在・未来の関係を意識することで、物語を語る際の、歴史の重要性に対するローリングの鋭い感覚が感じられる。

本全体に、歴史、伝説、神話への多数の言及がちりばめられている。もちろん全く架空の出来事という例も十二分に用意されている。例えば、ビンズ先生の魔法史の授業での18世紀に起こったゴブリンの反乱とか、ハーマイ

オニーが短いがしばしば語る hogwarts 校の創立や歴史に関する知ったかぶりの講義などである。けれども興味深いのは、歴史から引き出された詳細である。例えば、魔女狩りとか、ニコラス・フラメル of 錬金術や、伝説と神話——ドラゴン、ケンタウルス、グリンドロー、ヒポグリフ——など、すべてローリングが脚色し、想像的フィクションの世界で使うために発展させていったものといえる。彼女は基礎科目としての歴史をからかう傾向はあるけれども（ビンズ先生は唯一人の幽霊の先生で、退屈な授業をするために教室へ行く時、生身の体を教員室に置き去りにしてきてしまったとか）、それにもかかわらずハリーの冒険の詳細に、深みや背景、状況を加えるため、歴史という過去を頻繁に持ち出している。

#### 【おわりに】

ローリングはインタビューで、特定の読者を想定して書いていないと言っているが、彼女の才能は、ハリーが成長するにつれ、各巻ごとに変わっていく著者の声の中に最も明確に表れている。この傾向は、各巻で困難さの度合いが増すにつれ、よく映し出されていく。ハリーは第1巻では11才、第6巻では16歳である。彼女の声は、子供たちに、あてつけではなく話しかけている。子供たちは、大酒のみとか暴力のほかに、少し下品なジョークなどにも出会う。人生は汚れなきままではない。好ましい正義の人物の死は、道徳的に振舞うことが難しく、立派であることは報われるという保証がないことを証明している。

このシリーズで、素直さは、おさえつけられるよりむしろ解き放たれている。ハリーは、規則及び規則を破ることについて、十分頻繁に説教をされてはいるが、彼の選択は彼自身にある。不公平さと嫉妬があり、彼は必ずし



も意図した通りには行動しない。誘惑に負けることを恥とはせず、規則を破ったり、あるいは明白な指図に反した行動さえするハリーと彼の友たちは、お堅い人間では全くない。けれども、共感と忍耐が彼らに動機を与えているのであり、道徳はたいていの場合不在に思われるかもしれない。けれども時々ある不品行にもかかわらず、彼らは善と悪の英雄的戦いとして、正しく振舞う範囲内にしっかりとどまっている。若き読者たちを抑えることを拒むことで、若き読者たち自身が関わり合い、そしてよく考えるという、その両方ができる魅力的な倫理体系をローリングは巧みに作り上げていっているのである。

本論は、2005年10月15日愛知大学にて開催された、日本英文学会中部支部第57回支部大会での発表原稿に、加筆、訂正したものである。

#### 参考資料

- Allen, Jamie. "Harry' and Hype." *CNN*. com. July 13, 2000. <<http://www.cnn.com/2000/books/news/07/13/potter.hype/>>
- Becker, Beverley, associate director of the Office for Intellectual Freedom, American Library Association, Phone interview: August 27, 2001; "Purging Flame: Pa. Church Members Burn Harry Potter, Other Books 'Against God'," *ABC News.com*. March 26, 2001. <[http://www.more.abcnews.go.com/sections/us/daily news/book\\_burning010326.html](http://www.more.abcnews.go.com/sections/us/daily news/book_burning010326.html)>
- Bloom, Harold. Conversation with Ray Suarez. *News Hour*. August 29, 2000. <[http://www.pbs.org/newshour/conversation/july-dec00/bloom\\_8-29.html](http://www.pbs.org/newshour/conversation/july-dec00/bloom_8-29.html)>
- Eccleshare, Julia. *A Guide to the Harry Potter Novels*. New York: Continuum, 2002.
- Grahame, Kenneth. *The Wind in the Willows*. Chicago: Contemporary Books, 1988 [1908].
- Handler, Daniel. "Frightening News." *New York Time*. October 30, 2001.
- Lewis, C. S. *The Chronicles of Narnia*. New York: Macmillan, 1950-1956.
- . "On Three Ways of Writing for Children." *Of Other Worlds:Essays and Stories*. London: Geoffrey Bles, 1966.
- Mendlesohn, Farah. "Crowning the King: Harry Potter and the Construction of Authority." *The Ivory Tower and Harry Potter*. Ed. Lana A. Whited. Columbia: U of Missouri P, 2002.
- Pullman, Philip. *The Golden Compass*. New York: Dell Yearling, 2001.
- Rose, Charlie. Jamie Allen, *CNN.com*. July 13, 2000. <<http://www.cnn.com/2000/books/news/07/13/potter.hype/>>
- Rowling, J. K. *Harry Potter and the Sorcerer's Stone*. New York: Scholastic Press, 1998.
- . *Harry Potter and the Chamber of Secrets*. New York: Scholastic Press, 1999.
- . *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*. New York: Scholastic Press, 1999.
- . *Harry Potter and the Goblet of Fire*. New York: Scholastic Press, 2000.
- . *Harry Potter and the Order of the Phoenix*. New York: Scholastic Press, 2003.
- . *Harry Potter and the Half-Blood Prince*. New York: Scholastic Press, 2005.
- . "Interviews and Essays." March 19,1999. <<http://www.search/barnesandnoble.com/booksearch/isbninquiry.asp?btob=Y&isb=0590353403&dusokatibkt=authorInterviews>>
- Schoefer, Christine. "Harry Potter's Girl Trouble." *Salon.com*. January 13, 2000. <<http://dir.salon.com/books/feature/2000/01/13/potter/index.html>>
- Sutton, Roger. "Potter's Field" and "When Harry Met Dorothy," *The Horn Book Magazine*. January/February 2001. <[http://www.hbook.com/editorial\\_jan01.shtml](http://www.hbook.com/editorial_jan01.shtml)>
- Tolkien, J. R. R. "[Letter] To Milton Waldman." *The Letters of J. R. R. Tolkien*. Ed. Humphrey Carpenter. Boston: Houghton Mifflin Company, 1981.
- . *The Lord of the Rings*. London: George

- Allen & Unwin, 1954-1955.
- Twain, Mark. "Preface." *The Adventures of Tom Sawyer*. New York: Washington Square Press, 1950[1875].
- Zipes, Jack. "The Phenomenon of Harry Potter, Or Why All the Talk?" *Sticks and Stones: The Troublesome Success of Children's Literature from Slovenly Peter to Harry Potter*. New York: Routledge, 2000.
- J. K.ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』松岡佑子訳, 静山社, 1999年。
- 『ハリー・ポッターと秘密の部屋』松岡佑子訳, 静山社, 2000年。
- 『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』松岡佑子訳, 静山社, 2001年。
- 『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』全2巻, 松岡佑子訳, 静山社, 2002年。
- 『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』全2巻, 松岡佑子訳, 静山社, 2004年。
- 林雪絵『「ハリー・ポッター」の秘密の教科書』データハウス, 2001年。
- 冬木亮子『ハリー・ポッターで読む伝説のヨーロッパ魔術』冬青社, 2001年。